

C-35 奈良市内高校生・大学生の身体計測値に関する一考察

池坊短大 有本 翠
安井 和子
○河野 遍
正木紀志子
竹中 芳子
奈良女大家政 水梨サワ子

1. 私共は体格向上にともない衣服寸法の基準を設定する目的で、男女高校、大学の生徒及び学生の身体計測を行ない、各年齢における計測値を得たので、この資料により生徒、学生の体格について2、3の考察を試みた。

2. 資料は1967年奈良女子大学文学部附属高等学校、男女生徒及び奈良教育大学、男女学生を衣服寸法に関する24（女子は25）項目について計測したものである。

① 絶対値9項目（身長、股の高さ、右袖丈、背丈、背肩幅、乳頭囲胸囲、胴囲、腰囲、頸付根囲）の平均値及び年齢間の増加量と相隣る年齢間の有意差の検定。

② 各年齢の男女長径、周径の発育過程の比較について考察した。

3. ① 高校の年齢間の増加量は順調であるが、大学は概ね横這である。大学各学年と高校3年との比較においては高校の方が優位である項目が多い。

② モリソンの偏差折線を描くと周径では腰囲、大腿最大囲以外は男子が優位であり、頸付根囲と上腕最大囲は特に顕著であった。長径では全項目について概ね男子が優位であった。